

## 第4章 外国のあまんじゃく昔話①

ここまで、佐伯区に伝わる「あまんじゃく伝説」をはじめ、日本各地に伝わる「あまんじゃく昔話」を紹介してきました。

それらの昔話を調査していた中で、外国にも佐伯区の「あまんじゃく伝説」や『雨蛙不孝』などに似ている昔話がありました。

まず、隣の韓国の昔話で『チョンケグリとオンマ』（＝青ガエルの息子と母親）を紹介しましょう。タイトルから想像できるとおり、日本の『雨蛙不孝』とよく似ているお話です。

### ◆チョンケグリとオンマ

“「山に行けといえ、川に行く」

「川に行くといえ、山に行く」

いつもアドゥル・チョンケグリ（青ガエルの息子）は、オンマ・チョンケグリ（青ガエルのお母さん）の言いつけの反対ばかりしていた。

ある日、藪の中には天敵の蛇がいるから行かないようにとオンマが言った。すると、アドゥルは、わざわざ藪の中で遊んで、蛇にかまれた。

鳴き方も「頼むからケグルケグル（ケロケロ）とお鳴き」とオンマが頼んでも、「いやだ。クルゲクルゲ（ロケロケ）」と引っくり返して鳴く。

ほとほと疲れたオンマは、とうとう病気になってしまった。オンマは考えた末に息子に言った。「私が死んだら川に埋めておくれ」。

オンマは、本当は山に埋めてほしかった。でも、いつも反対のことをする息子。川に埋めてくれと言え、きっと山に埋めるに違いないと考えた。

ところが、今度ばかりは違った。アドゥルはようやく自分の愚かさに気づいたのだ。オンマは僕のために病気になってしまった。そう思って悔やんだがもう遅い。オンマは、しばらくして死んでしまった。

「川に埋めたら流されちゃう」。でも、オンマの最後の頼みだ。叶えてあげたい。アドゥルは、オンマに言われた通り、オンマを川に埋めた。

しばらく経った雨の降る日のこと。「大変だ。オンマの墓が流される」。鳴き声も前とは違い、ケグルケグル。「オンマの墓が・・・」。ケグルケグル。アドゥルは、いつまでも悲しくて泣き続けたとさ。“

（ちょん・ひょんしる著.(2006 年).『民話で知る韓国』. 日本放送出版協会.160-163 より引用)

## 【解説・コメント】

- 1 この話は韓国に伝わる昔話です。日頃より、子ガエルは母ガエルの言いつけの反対ばかりしていたせいで、母ガエルはとうとう病気になってしまいます。母ガエルは死の床で、子の<sup>へそ</sup>臍曲がりの性格を読んで、山に埋めてほしいところを「川に埋めておくれ」と言います。

しかし、子ガエルは、今までの愚かさに気づき、「母の最期の頼みは叶えてやりたい」と、川に埋めてしまいます。雨の降る日になると、「大変だ、母さんの墓が流される」と、いつまでも鳴き続けたというお話です。

第2章「子どもが主人公！日本各地のあまんじゃく昔話」で紹介した『雨蛙不孝』とほぼ同じ筋・内容です。

- 2 私は、今回、いろいろと調べる中で、『雨蛙不孝』などの〇〇不孝という昔話を初めて知り、「日本にはこんな昔話があったのか」と啓発されました。孝を重んじる韓国では『チョンケグリとオンマ』は親孝行を促す話としてよく知られており、親孝行を促す教科書のような役割を果たしているとのこと（『民話で知る韓国』より）。

日本の〇〇不孝という昔話に比べるともっとメジャーなものそうですね。

- 3 「チョンケグリ」は韓国語で「青ガエル（＝アマガエル）」を意味し、さらに「反対のことばかり言う人」を「チョンケグリ」と言うこともあるそうです。まさに、日本の「あまんじゃく」、「あまのじゃく」の使い方と同じで、人の一つのタイプを表す言葉として、一般社会で身近な存在のようです。

一方で、日本の「あまんじゃく」、「あまのじゃく」は、コラム①「“天邪鬼”、その正体は・・・」で紹介したように、

- ア 人に逆らい、邪魔をする鬼、
- イ わざと人の言に逆らって片意地を通す者
- ウ 人間の煩惱の象徴
- エ こだま・山彦 など

いろいろな意味合いがあります。

「チョンケグリ」にもいろんな意味合い、使われ方はあるのでしょうか。

- 4 日本と隣の韓国でここまで似かよった昔話があるということは、日本海を経由した文化の伝播があったということでしょう。

その源をたどると、この章の最後に紹介する、中国の「元康」（西晋の元号で291～299年）の時代以前の親子の話に行きつくようです。